

編集後記

一八二号をお届けします。

本来ならば、大会の報告を兼ねて七月に刊行の予定でしたが、編集責任者の都合により大幅に遅れ、十月刊行予定の号を一八二号として出す結果となりました。ここ二、三年刊行が予定どろりにいかず、会員の方から〃年間四冊出せばよい、というものではない。〃というお叱りをいただいておりますので、今年度こそはと作業をすすめていたのですが、またまたご迷惑をおかけすることになり申し訳ありません。

さて、本号は武田信也氏の論説を巻頭に取り上げました。一七八号の論説に続くもので、大友武家故実の形成と展開を中心に論じたものです。今後新史料の発掘と他分野の武家故実の論述が楽しみです。

研究ノートの野田秋生氏と甲斐素純氏は、それぞれ出身地に関連したテーマでの論考です。会員諸氏も身近なテーマでの発表をお待ちしております。